

思い届いた奇跡の大会



錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

みなでつくる
錦城高校新聞

高校生活最後の球大ミ
ラクル開催！雨をも吹
き飛ばした3年生の最
強フレイをご覧あれ

3年生秋季球技大会実施

9月24日(木)、コロナウイルス感染防止のため、3年生だけで球技大会が行われた。当日は台風が予報されており開催が危ぶまれていたが、雨が降ることもなく予定通り終了した。今号ではその中から決勝戦の様子を一部お届けする。

男バス 3C対3K

試合はC組が優勢に。C組が華麗にバスをつないでゴールの後もC組が得点を入れ、9対0と差が開く。試合はヒートアップし、審判に注意される場面も。終盤、K組は何度もゴールを狙うものの惜しくも外し、試合は11対0でC組が勝利を飾った。



男バス決勝戦、ゴール前の攻防！
バスを繋いで繰り出されたC組のシュートを防ごうとするK組

試合はC組が優勢に。C組が華麗にバスをつないでゴールの後もC組が得点を入れ、9対0と差が開く。試合はヒートアップし、審判に注意される場面も。終盤、K組は何度もゴールを狙うものの惜しくも外し、試合は11対0でC組が勝利を飾った。

女バス 3C対3H

3C対3Hの決勝戦はハイレベルな戦いとなった。序盤H組の強烈なサーブに3Cは苦しんだが、H組のスパイクをC組がカットしたところから流れは逆転。C組は安定したレシーブで確実に点を重ねていき、同点まで追い上げる。C組はそのまま流れに乗り、15対10で第1セットを手にした。



前半J組のチャンス
得点を狙うシュート直前

後半はE組が攻勢を強め、試合中盤で1点を獲得。1対1で後半が終了し、勝負はP組がリードする展開に。C組は相手チームの隙をつく絶妙



K組とA組、両チームの鋭いボールが飛び交う試合だった

サッカー 3J対3E

ぬかるんだコートの中、3J対3Eの決勝戦は始まった。開始直後はE組が試合の流れを掴み、スローインやコーナーキックなどでゴールへと迫ったが惜しくも点は入らず。次に流れはJ組へと傾き



安定したレシーブカ
みせるC組

開催に尽力 球技大会実行委員長

球技大会実行委員長の確井翔くん(3J)は球技大会後「例年通りの形での実施はできませんでしたが、新しい形で、今までできなかった経験が出来たと思います」と振り返る。コロナウイルスの感染拡大防止という観点から一度は中止になった秋季球技大会だが、実行委員は感染リスクを減らして実施できる方法を模索してきた。結果、観戦中のマスクの着用を義務づけたり、クラスTシャツに出席番号を入れることで使いまわしのゼッケンを廃止したりといった解決策のもとで開催にこぎつけた。



大会全体を振り返ってもらいました

今回の球技大会は学年ごとでの開催になったため、審判の人数不足が予想された。それを解消するために、担当の部活の人だけでなく他部活にも協力を依頼したり、実行委員が助っ人に入ったなどの工夫をしたという。

3年生に向けて「雨が心配されましたが、球技大会が実施できてよかったです。朝、係や委員会の生徒が協力して準備をしてくれました。本当にありがとうございました」と感謝の気持ちを話した。(蓮)